

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

2022年2月6日(日)

黒田 禎一郎

主 題：「ぶれのない人生を歩もう」

—みことばに聞く—

テキスト：2ペテロの手紙3章15b～18節

### はじめに

- ・私たちはこれまでペテロ第2の手紙を、順に学んできました。  
今日はいよいよその最後の部分となりました。ペテロは、この書簡の受取人に何を伝えたかったのでしょうか。その部分を学びたいと願います。
- ・前回、3章15節aで「**私たちの主の忍耐は救いであると考えなさい。**」と学びました。ペテロが本当の意味で神の救いにあずかったのは、確かに「主の忍耐」にありました（それは前回に学ぶ）。さらに主の忍耐について、パウロも同じように書き送ったと述べました。  
**3:15b 愛する、私たちの兄弟パウロも、自分に与えられた知恵にしたがって、あなたがたに書き送ったとおりです。**
- ・パウロの書き送った書簡は、使徒の働きに詳しく宣教活動が記録されています。パウロは小アジアで多くの教会の礎を築き、深い愛と忍耐をもって、最後まで牧会し続けました。しかも彼はたましいを主に導いただけでなく、福音の性質を明確にしました。彼は確かに神の器でした。
- ・彼は当時の学術都市タルソで育ち、成人してからは当時最も尊敬されていたラビ（律法の教師）ガマリエルのもとで学びました。パウロはユダヤ教のいわゆるエリート神学者でした。そして素晴らしいことは、彼が学んだ律法の知識と賜物を、神はキリストの教会を建て上げるために豊かにお用いになられたことです。
- ・パウロの性格は実直で、妥協を許さないものでした。そして物事の本質を鋭く見抜くことができ、不必要なものを切り捨てることができた大胆な器でした。ですから、他の人々とぶつかることは当然ありました。それでも、神ご自身は彼に知恵を与え、その務めを担わせられたのでした。そこに神の「マスタープラン」が秘められていました。
- ・そこでペテロは自分のことに次いで、信仰の兄弟であるパウロについて述べました。今日は、そこから主のお心を尋ねていきたいと願います。

### 大切なポイント

## 1. 愛する兄弟パウロ

3:15b 愛する、私たちの兄弟パウロも、自分に与えられた知恵にしたがって、あなたがたに書き送ったとおりです。

- ペテロは「愛する、私たちの兄弟パウロ」と呼んでいます。そして次のように述べました。

3:16 その手紙でパウロは、ほかのすべての手紙でもしているように、このことについて語っています。その中には理解しにくいところがあります。無知な、心の定まらない人たちは、聖書の他の箇所と同様、それらを曲解して、自分自身に滅びを招きます。

### 1) 理解しにくいところ

- ここに「理解しにくいところ」とありますが、多くの聖書学者は、ペテロがここで案じていたのは、人が義とされるという教理のことと考えています。「あなたがたが救われるのは行いによるのではなく、ただ信仰によるのです。」(信仰義認という)。とパウロが語るのを聞いて、「何も変わらなくてよいのだ」曲解してしまいました。またパウロは、「あなたがたは、すべてのことから自由です」と聞いて、「そうか、何をしてよいのだ」と安心する者もいました。
- すなわち「信仰」と「生活」を切り離して、クリスチャン・ライフを送る人が現れました。この問題は今日にもあります。信仰の「二元論」です。そのような風潮が広まった中で、使徒ヤコブは次のように述べました。
 

2:14 私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行いがないなら、何の役に立つでしょうか。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。 ヤコブ
- しかしパウロが主張したのは、決して「信仰」と「生活」を切り離してではありませんでした。彼は次のように述べました。
 

3:31 それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法を確立することになります。ローマ

6:1 それでは、どのように言うべきでしょうか。恵みが増し加わるために、私たちは罪にとどまるべきでしょうか。ローマ

6:2 決してそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうしてなおも罪のうちに生きていられるでしょうか。ローマ
- パウロの言葉に「理解しにくいところ」があるとペテロが述べたのは、たぶんその辺りに問題点があったのではないかと思います。結果、一部の人々はいことばを曲解し自分自身に滅びを招きました。

## 2) 今を生きるキリスト者

- では、どう生きればよいでしょうか。キリスト者は今を生きる者です。前回、私たちは神の忍耐を学びました。神はどれほどの忍耐をもっておられたか、神のあわれみがどれほど深いものであったか、それを知った者は神のあわれみの深さに圧倒され、悔い改め、神に立ち返る以外にないところにまで追い込まれていきます。ですから、いつまでも自堕落な生活を続けるというようなことは起こらないはずです。
- ペテロが3章16節で確認しようとしたことは、そのことでした。大切なことは、使徒たちが伝えた福音を注意深く聞くことです。聖書全体からバランスよく学ぶことです。そして神が今を生きる私たちに、何を求めておられるかを真剣に聞き分けることです。
- 現代においても私たちの聖書理解は、一人よがりとなり歪んでいないだろうか。聖書全体の教えに照らされながら、吟味し続けていくことが大切です。それが私たちの行い、この世における生き方に表れるものです。信仰者としてバランスを欠いていないかを吟味することは大切です。
- ペテロは「無知な、心の定まらない人たち」と述べました。心が定まらないということは、置かれた状況の中で揺れ動いている状態です。「私の信仰は、ここに立つ」と言い切る基盤を自分の内に確立していない人のことです。
- ヤコブはそういう人のことを、こう言いました。  
 1:8 **そういう人は二心を抱く者で、歩む道すべてにおいて心が定まっていな  
 いからです。 ヤコブ**  
 自分が立つべき基盤を、みことばの中にしっかりと置き、ゆるぎなく歩むことは大切です。それは今日に生きるキリスト者にも、ペテロが勧めていることでもあります。そこで大切なことは、次のポイントです。

## 2. 神を人格的に知る

### 1) 主イエスを知ること

- ペテロはこの書簡（第2ペテロの手紙）のはじめで、こう言いました。  
 1:1 **イエス・キリストのしもべであり使徒であるシモン・ペテロから、私たちの神であり救い主であるイエス・キリストの義によって、私たちと同じ尊い信仰を受けた方々へ。**
- 1:2 **神と、私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたにますます豊かに与えられますように。**
- これは手紙のあいさつ文ですが、ペテロの祈りでもあります。「ますます豊かに与えられ」とは、「増し加えられる」とか「成長する」というニュアンスも

含まれます。

- 神の恵みがあなたがたの上に「ますます豊かに加えられ」、神からの恵みと平安があなたがたの心の隅々まで広げられていきますように」という祈りです。それは単に心の中にとどまらず、内側から外へ広がり、あなたの兄弟姉妹、あなたの伴侶、あなたの大切な家族、そしてさらに広く広げられていきますように、ということです。そのために求められることは、みことばを通し、また実際の信仰の歩みを通して、神と主イエスを知ることです。

- 皆さん。そこで大切なことは「知る」ということです。「知る」ということは、聖書を通読し、聖書の知識を増やすことだけを意味するものではありません。確かに、私たちは神を知るためには、聖書を開かなければならなければなりません。聖書通読です。
- 聖書はじつに不思議な書物です。なぜなら、聖書は成功物語（サクセス・ストーリー）ばかりを並べているのではありません。また失敗ストーリーばかりを並べているのでもありません。聖書は人間の姿を赤裸々に描き出し、不完全で道を失いやすい人間の歴史の現実をそのまま描いています。

#### 『例 話』

- 皆さん。北極海に浮かぶ氷山を思い浮かべてください。見えている部分は全体の一部分です。大部分は水面下に隠されています。普段は隠れている部分が氷山全体を支えているように、私たちの心の奥底に潜む問題や課題は、私たちの人生を大きく左右するのです。
- 聖書は、その隠された部分を明るみに出し、何千年という歴史の中で見えたり隠れたりする罪の現実には、私たちの心に向けさせようとしているのです。
- 聖書において「知る」とは、「交わり」も意味します。つまり私たちが「神と主イエスを知る」とは、そこに「人格的な交わり」が生まれてくること意味します。私たちも人生の途上で友と出会い、お互いを知るようになります。そして親密な交わりが形成されるとき、お互いの問題や課題について、またお互いの思いや願い、祈りを分かち合うようになり、友を深く知るようになるのです。それは神が私たちに願っておられることでもあります
- 私たちは人生の歩みで、心踊らされる喜びの時があります。長い間、祈ってきたことがかなえられるという経験です。「主よ。感謝します！」という感謝と賛美が、これまで何度味わってきたでしょうか。祈りが聞かれた経験を通して、私たちは主を知るものです。また試練を通して主を知ることがあります。
- つまり順境の時も、逆境の時も、「神と主イエスを知ること」です。それによ

って、さらに主の「恵み」と「平安」をいただけるのです。なんという幸いではありませんか。

## 2) 原点復帰

- ここで大切なことは、私たちは絶えず出発点に戻らなければならないということです。出発点とは、神が私たちをご自身に似る者として創造された、そのスタート地点のことです。私は何者なのか。神はなんのために私をお造りくださったか。そしてどこへ向かうべきものであるかです。神のもとには、これらの問いの答えがあります。ですから、その出発点に戻ることは重要です。
- アダムとエバ以来、人類は主の御顔を避けて歩む性質を受け継いできました。迷える一匹の羊のように、気がつくと、自分がどこにいるのか、どこに戻らなければならないかさえ、分からなくなり途方にくれます。羊には自分で自分を見出す力などはありません。だれかが捜しに来てくれない限り、そして大声で呼んでくださらない限り分かりません。
- 皆さん。神が最初に人類に問われた質問は、「あなたはどこにいるのか？」(where are you?) 創世記 3:9 であったことを覚えておられますか。ペテロは次のように進めました。  
3:17 ですから、愛する者たち。あなたがたは前もって分かっているのですから、不道德な者たちの惑わしに誘い込まれて、自分自身の堅実さを失わないよう、よく気をつけなさい。
- この「不道德な者たちの惑わし」とは、この世の価値観に従い歩んできた者たちが、神の民に加えられていくときに生ずる問題です。ある意味で、それは避けられないことでもあります。
- この世の価値観から聖書の価値観にシフトしていくのが、私たちのクリスチャン生活です。しかしそこは神がご臨在くださり、神の国が実現される所でもあります。しかし一方では、そこには落とし穴もあります。神の国を広げるところか、狭めてしまうことさえあります。では、どう生きれば良いでしょうか？

## 3) よく気をつけること

- それは「よく気をつけて」いかなければなりません。  
そこで大切なことは、教会が礼拝において神のみことばの宣教を重んじることです。講壇から語られる神のみことばに、私たちは耳を傾けて歩み続けることです。
- 偽物を見抜くために最も効果的な方法は、本物だけを見つめることです。私たちの主であるイエス・キリストを見つめ続けることです。主イエスの福音にと

どまり続け、このお方との親密な交わりから学び続けていくことです。そのような信仰生活を送る人は、「ぶれのない人生を歩む人です。」ぶれのない生き方の秘訣は、そこに秘められています。

- 最後に、ペテロの祝祷を読みます。

3:18 私たちの主であり、救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。イエス・キリストに栄光が、今も永遠の日に至るまでもありますように。

## ま と め

主 題：「ぶれのない人生を歩もう」

—みことばに聞く—

- 今日、私たちは第2ペテロの手紙の講解説教の最終回を迎えました。使徒ペテロは苦難の下に置かれた離散ユダヤ人・クリスチャンたちに対して、この書簡を書き送りました。
- ペテロが心から願ったことは、離散した聖徒たちが、惑わしや不道徳に誘い込まれて歩むのではなく、「ぶれのない人生を歩む」ことでした。そこで、どのような生き方が求められるのでしょうか。

3:17 ですから、愛する者たち。あなたがたは前もって分かっているのですから、不道徳な者たちの惑わしに誘い込まれて、自分自身の堅実さを失わないよう、よく気をつけなさい。

- 大切なこととして、次の点を覚えましょう。
  1. 自分自身の堅実さを失わないこと  
そのためには➡「よく気をつけること」
  2. 主イエスを人格的に「知る」こと

\* God bless you!